

平成24年度以降の通水体制について(必ずお読みください!)

☆なぜ通水体制が変わるのか？

① 経常賦課金（維持管理費含む）収入が減っています

皆さんとの1俵1斗の約束により、経常賦課金（維持管理費含む）の単価が10a当たり6,400円から5,000円に下がる地区が増え、年々賦課金収入が減っております。

最終的には、今年度と比較して、2千万円程の大きな減収額となる見込みですので、電力料金等の恒常的経費をなるべく抑えていく必要があります。

② 電力料金の値上がりが予想されます

福島第一原発事故以来、原子力発電所再稼働の目処が立っておらず、当座は再生可能エネルギーの供給も見込めず、火力発電が増えることにより、電力料金の大幅な値上げが予想されます。

③ 電気を節約することが社会の一員としての義務となりました

東日本大震災や原発事故をきっかけに、電力供給量が少なくなり、国民一人一人が節電に取り組まなければならない時代になりました。私たちが社会の一員として、他産業と同様に節電に努める義務があります。

これら3つの理由により、出来る限り電力使用量を抑えていくことが重要となります。そのためには、水稲の生育に支障をきたさない範囲で、節水（節電）が必要であり、組合員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

☆通水体制がどのように変わるのか？

理事会、維持管理委員会で、昨年の課題を踏まえて検討を重ねた結果、以下の内容で通水することになりました。

① 代掻き期・田植え期（5月6日～5月31日）

- 5月10日から清水揚水機場を稼働し、24時間通水することは変わりありませんが、12時間通水への切り替え時期は6月1日に固定せず、農作業状況を考慮しながら配水責任者の皆さんと協議の上、臨機応変に対応します。5月中は12時間通水に切り替わっても、降雨がなければ毎日通水します。
- 新田川の水量が豊富な場合は、5月6日から駒場頭首工より取水し、1号幹線下流部（十日町・飛田方面）に通水しますので、有効利用をお願いします。
- 幹線用水路末端の宮野地区や升形地区、各分木工の最下流地域の皆さんは、数日遅れで用水利用が可能となります。排水反復水も最大限利用して清水揚水機場の単位取水量を抑えるために、育苗や春作業を調整し、代掻き開始計画日を後ろへずらしていただくようご協力をお願いします。

② 普通期（6月1日～9月7日）

- 昨年同様に3ブロックのローテーションかんがい（3日に1回通水休止）の12時間通水体制にしますが、出穂期前後等にどうしても末端まで水が到達しない地域については、配水責任者の皆さんと協議の上、その地域のみ通水時間の延長等の対応策を講じます。
- 新田川の流量が豊富な場合は、夜間も駒場頭首工より取水し、1号幹線下流部（十日町・飛田方面）に通水し、現況河川水の有効利用を図るとともに下流の升形揚水機場の運転時間が早まるよう努めます。また、到達時間や末端用水状況を考慮しながら升形揚水機場の運転停止時間を調整します。

*普通期の体制については、昨年の課題を踏まえて、以下のような5通りの方法について検討しました。

- 4日に1回休み（3日間は全域に流し、1日は全域休止）の12時間通水体制
- 4日に1回休み（4ブロックのローテーション）の12時間通水体制
- 3日に1回休み（2日間は全域に流し1日は全域休止）の12時間通水体制で出穂期前後は24時間体制
- 3日に1回休み（昨年同様3ブロックのローテーション）の12時間通水体制で出穂期前後は24時間体制
- 曜日毎の3ブロックローテーション（月木休み、火金休み、水土休みの地区有り）で日曜日は全域に通水する12時間通水体制

検討の結果、4日に1回休み、曜日毎に分けて日曜日は全域に通水、渇水期の全域一律24時間通水では経費節減につながらないこと、昨年の状況から中干しのやり方等を工面していただくことにより十分に対応可能とあるとの判断により、本案で通水することになりました。

③ その他の取り組み

- 排水反復施設の設置が可能な箇所については、費用対効果を検討し、効果が大きい箇所については、順次対策を講じていきます。

☆節水のために皆さんにお願いしたいこと

- 複数枚のほ場を連続して耕作している方は、田んぼ1枚毎への引水ではなく、なるべく田越しかんがいを願います。無駄な排水が減り節水効果が大きいだけでなく、水路下流への到達も早くなり、ダブルの効果が期待できます。また、畦畔の用水路側に田越しかんがいの設備を作った場合は、水尻までの距離が短く管理も楽になるようです。
- 掛け流しは止め、徹底した水口・水尻管理で無駄のない用水利用をお願いします。
- 各用水ブロック毎のローテーションや約束事を取り決めし、用水の有効利用を図ることにより、地域みんなが使い勝手の良い体制をつくりましょう。
- 畦ベルトの設置や畦塗りをを行い畦畔からの漏水を防ぎ、保水に努めましょう。保水を良くして農薬や除草剤の効果も向上させましょう。



宮内地域保全会による花の植栽活動（新庄聖マルコ幼稚園園児とともに）